基本計画策定部会における検討状況

資料５

１　部会の役割

　　平成27年度を起点とする新たな「子育て支援・少子化対策に関する基本計画」について具体的に検討すること

２　検討の経過

　(1)　第１回（平成26年3月13日（木））

　　　・基本計画の構成案について

【主な意見】

* 若者が県内で学び、県内で働くことを支援する視点も重要
* 男性が育児期に早く家に帰って子育てに関わることが必要
* 地域全体で子どもを育てる環境が必要
* 小学1年生は子育て支援の最初の壁であり、放課後児童クラブは大切なポイント
* 市町村ごとに制度やサービスの内容に差がある

　(2)　第２回（平成26年6月2日（月））

　　　・基本計画の骨子案について

【主な意見】

* 富山県は同居率が高く、祖父母の子育て支援も重要
* ライフプラン教育を県内全体で体系的に行えるようにしてほしい
* 子育て応援券の予防接種での拡充を検討してもらいたい
* ファミリーサポートセンターなどの市町村間の差を埋めてほしい
* 男性の育児休業取得促進も必要
* 若者の大都市流出を防ぐためには、地方に女性の仕事を確保することが必要

　(3)　第３回（平成26年10月6日（月））

　　　・基本計画の中間報告案について

【主な意見】

* １人目を産んで苦しいと、2、3人目は産まない。1人目から援助し、子育てしやすい環境を整備することが必要
* 家庭・子どもを持つすばらしさの意識付けを行う必要
* 学生にすれば、大学が１つよりも、複数あったほうが選択肢が増える

＜出生率等を目標指標とすることについて＞

* 何らかの数値目標があると、県民に見えやすくなり、行動に移しやすくなる
* 非常にデリケートな問題で、女性としては抵抗がある。男性も自分のこととして考えられるような指標が必要
* 合計特殊出生率は、データとしては出していくと思うが、目標指標としてはデリケートなので、希望出生率を指標として設定していけばよいのではないか。
* 希望出生率：国民の希望が叶った場合の出生率（H26.5.8日本創成会議 人口減少問題検討分科会が提唱